

高等学校国語科における 指導と評価の在り方に関する研究（中間報告） —「国語総合」における言語活動を中心に—

「高等学校教科指導の充実に関する研究（国語）」研究会において、平成25年度から実施される新学習指導要領で一層明確になった、言語活動を通じて言語能力を育成するという国語科における指導の在り方について研究した。授業における言語活動の目的を明確にし、国語科における評価の観点、評価基準との関係を明らかにした単元構想の例を示し、各学校における授業と評価の改善のための資料として供することを目指した。

〈キーワード〉 高等学校 国語科 国語総合 言語活動
評価基準 年間学習指導計画 単元 授業改善

研究会委員

県立日進高等学校教諭 中村 純子 県立尾西高等学校教諭 武田 和男
県立五条高等学校教諭 板垣 光保 県立常滑高等学校教諭 林 直紀
県立豊田高等学校教諭 原田あゆ子 県立新城東高等学校教諭 土生 泰
総合教育センター研究指導主事 宮崎 千智（主務者）

はじめに

平成20年1月の中央教育審議会答申を踏まえ、平成21年3月「高等学校学習指導要領」が公示された。この改定に続き平成22年3月の中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」を受け、平成22年5月には文部科学省初等中等教育局長通知として「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」が発出された。このような一連の学習指導要領改訂等の方向を定めた改正学校教育法では第30条の第2項において学力の重要な3つの要素が示されている。即ち、(1)基礎的・基本的な知識・技能、(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、(3)主体的に学習に取り組む態度の3要素である。このうちとりわけ思考力・判断力・表現力の育成に資する目的で、学習指導要領の改定等に際して各教科等を貫く改善の視点として言語活動の充実が挙げられている。

各教科等における言語活動については、国語科で培った能力を基本に充実が図られるものであり、その基本となる、言語の教育としての国語科の立場を改めて重視し、国語科における言語活動について認識を深め、授業改善を図ることが必要である。

1 研究の目的

改訂高等学校学習指導要領の実施に向けて、国語科における教科目標を実現するための言語活動の在り方を探り、各学校における国語の授業と評価の在り方の改善に資する。

2 研究の方法

- (1) 学習指導要領改訂及び評価の在り方にかかわる諸答申や通知等の文献を参考にして、改定によって高等学校国語の共通必修科目となる「国語総合」における言語活動の在り方を研究する。
 - (2) 指導と評価の在り方について、総合教育センターにおける先行研究と各学校における「年間学習指導計画」の実際を基にして、現状における授業と評価の課題を分析する。
 - (3) (1)を基にして、「国語総合」の「評価規準の設定例」を作成し、単元における言語活動に対応する「具体的な評価規準の設定例」を「指導事例」として作成する。
 - (4) (2)の課題を踏まえ、(3)で作成した「評価規準の設定例」と言語活動との関係が明確であり、授業改善に生かしやすい年間学習指導計画の形式を工夫する。
 - (5) (4)で工夫した年間学習指導計画の形式によって、研究協力委員が所属する各学校の生徒の実態等を考慮した年間学習指導計画を立案し、この計画上に位置付けた授業実践を通して、「評価規準の設定例」の妥当性について検証する。
- ※ (3)については、本年度の研究対象を評価の5観点のうち「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の3観点の評価規準案を作成し、「関心・意欲・態度」「知識・理解」については、次年度以降に作成する。
- ※ (4)(5)については、本年度の研究の進捗状況から今後の課題とする。

3 研究の内容

(1) 研究に当たっての留意点

研究に当たって、次の共通理解の下に研究を進めた。

- ア 言語能力の向上を目指した学習指導要領改訂のねらいと実践とをつなぐ研究とすること。
- イ 各学校における授業改善の方途を提案する研究とすること。
- ウ 他教科等の指導の基本となる言語能力を育成する教科としての国語科の指導の在り方に配慮した研究とすること。

(2) 研究の対象とする科目等について

学習指導要領の改定に際して、高等学校の教育課程としての共通性を重視する観点から、高等学校における学習の基本、社会人として必要な国語の能力を育成する科目として共通必修科目とされた「国語総合」を研究の対象とする。

(3) 各学校における「国語科年間学習指導計画」にみられる課題について

総合教育センターでは平成14・15年度の「高等学校国語科における評価規準、評価方法等の在り方に関する研究」において、平成15年度から実施の学習指導要領における選択必修科目「国語総合」について評価規準等を明らかにした年間学習指導計画の具体例を示すとともに、この年間学習指導計画にある単元を抽出・実践し、その単元の指導と評価の計画、指導と評価の実際、実践後の成果と課題等について研究した。この研究は、平成15年度からの学習指導要領の実施に当たり、評価規準を明らかにした指導と評価の在り方について参考となる資料、特に年間学習指導計画の様式提示についての要請にこたえたものであった。【資料1】から分かるように、県内の多くの高等学校が、この研究成果を参考にして評価の観点に基づく評価規準を明示した年間学習指導計画を作成している。

そこで、本研究においてはまず、先に研究成果として示した年間学習指導計画の様式、記載内容が、現在各学校で作成されている年間学習指導計画にどのように反映されているかという実態を分析した。なお、調査の対象とした年間学習指導計画は、40校の県立高等学校から平成22年度の研修講座における学習指導案に関する協議会資料として提出されたものであり、「国語総合」以外の科目も含んでいる。

記載内容ごとの調査結果は【資料1】の通りである。なお、表中の「記載内容」は平成14・15年度の研究における年間学習指導計画の記載内容と対応している。

【資料1】年間学習指導計画の記載内容に見られる傾向

記載内容		各学校における「年間学習指導計画」の実際
ア 標題, 印座		年間学習指導計画が従来から具備している項目であり、40例中39例が標題「年間学習指導計画」と印座を設けている。他の1例は標題を「国語科現代文シラバスー年間学習計画表ー」とし、印座を設けていない。これは生徒に配布するためのものであり、「年間学習指導計画表」に準ずるものを別に設けているものと考えられる。
イ 教科, 科目, 教科書, 指導対象, 指導者名等		年間学習指導計画が従来から具備している項目であり、40例中39例が記載している。他の1例は生徒に配布するためのものであり、指導対象, 指導者名の欄を設けていない。
ウ 教科, 科目の目標		学習指導要領にある教科, 科目の目標が記載してあるものは、40例中5例。記載のないものが32例。学習指導要領の記載とは異なる内容, 表現により目標を設定している例が3例。
エ 教科, 科目の評価の観点及び趣旨		評価の観点が記載してあるものは、40例中14例。記載のないものが26例。ただし、記載のあるもののうち、指導要録改善通知に示された観点とは異なる観点・趣旨を示している例が4例。
オ 各領域への配当時間		学習指導要領に示された領域ごとの配当時間に基づき、年間の領域ごとの配当時間が記載されている例は、40例中1例。ただし、単元ごとの主たる領域が示されており、年間学習指導計画から配当予定時間を算出することのできる例は多い。
カ 評価規準		具体的な単元に応じた評価規準を設定する基となる内容のまとまりごとの評価規準を設け、「おおむね満足できる」段階を設定し、具体的な単元から独立して示している例はない。
キ 評価方法		観点ごとの評価の方法について記載しているものが40例中7例。評価の方法を単元ごとに示している例はこの7例を含む37例。いずれも示していない3例のうち1例は単元ごとの評価方法として符号が記載されているが、符号と対応する評価方法の凡例を掲載していない。
ク 年間学習指導計画表	主な領域	年間学習指導計画表に評価の観点と対応する単元ごとの主な領域を記載している例は40例中39例。ただし、単元にかかわらず同一の領域を記している例、3領域すべてを重点とするわけではない選択科目「現代文」などにおいても教科における3領域のそれぞれに重点をおいた単元が設定されているといった例は多い。
	具体的な評価規準	単元ごとの具体的な評価規準を記載している例は40例中39例。生徒に配布する目的で作成し、記載していないものが1例。
ケ 進度表等		計画に基づく指導の進度についての記載欄があるものは40例中26例。記載のないものが14例。

この40例の年間学習指導計画の分析から明らかになる国語科における指導と評価の課題は、まず、国語科で育成すべき能力を明らかにし、評価の観点を明らかにした上で指導がなされているとは言いがたいことである。主に教材ごとの特性に応じた規準を設け、これに基づいて指導と評価がなされていることが推測でき、この点から判断して授業において育成したい能力を明確にした指導がなされているとは判断しにくいのが現状である。

このような課題にもかかわらず、年間学習指導計画に基づいて作成することが前提となる1時間ごとの学習指導案には評価規準が欠かさず記載されており、目標に準拠した評価をしようとする姿勢そのものが欠如しているわけではないと判断できる。従って実態における課題は、学習指導要領等と対応した評価規準を設定する方法や、単元ごとの具体的な評価規準の設定方法、学習活動と学習評価を対応させる方法等に対する理解が不足していることであると考えられる。

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成22年5月）において、「高等学校における学習評価については、引き続き観点別学習状況の評価を実施し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要があること」と取り立てて言及があることもこのような現状を受けたものといえる。

多様な言語能力を調和的に育成することを目的とし、それぞれの単元においてどのような言語活動を通して、どのような能力を育成するための指導をするのかを明確にするためには、各学校で作成する年間学習指導計画が重要な役割を担っている。「縦軸に指導事項や言語活動等、横軸に単元名等を示した一覧表を作成するようにしたい」（『中等教育資料』平成21年6月号）という指導に端的に表れているように、学習指導要領の改定を機に年間学習指導計画の役割について根本から検討することが求められている時期であり、現状における課題に対応した対策を提案することが必要である。

（4）「国語総合」の評価規準の設定例について

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成22年5月）では、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施することとされ、学習評価における観点は、新学習指導要領を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」に整理された。これを受けて示された高等学校国語の評価の観点は、これまで同様の5観点である。「関心・意欲・態度」と「知識・理解」とはそのまま教科における評価の観点となり、「思考・判断・表現」、「技能」は内容のまとまりに対応させて、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」を観点としている。

本研究においては、この5観点のうち内容のまとまりに対応した「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」の3観点について「国語総合」の評価規準を例示する。この評価規準は特定の教材等を想定せず、国語科において身に付けさせるべき能力のおおむね満足できる状態を示すものとする。この規準を具体的な言語活動や教材の関連付けることで、単元における評価規準として具体化するものである。

本研究においては新学習指導要領の第2章、第1節国語、第2款各科目、第1国語総合の「2内容」に「(1)次の事項について指導する」とある指導事項を、言語活動例や教材と対応させやすく、科目の指導を通じて漏れなく、しかもバランスよく指導できるように配慮して細分化した評価規準の例を設定した。

領域ごとに、指導事項とそれに対応する「評価規準の設定例」における項目数は【資料2】の通

りである。

【資料2】指導事項と「評価規準の設定例」の項目数

領域	学習指導要領の 指導事項の項目数	「評価規準の設定例」 とした項目数
A 話すこと・聞くこと	4	1 2
B 書くこと	4	9
C 読むこと	5	1 5

なお、ここに項目数を示した「評価規準の設定例」は、【資料4】として後掲するとともに、指導事例のそれぞれにも「具体的な評価規準の設定例」との対応を明らかにして記載する。

単元ごとの指導においては、これらの「評価規準の設定例」の複数項目を同じ単元で指導することが多いのであるが、指導の重点を明確化し、科目指導の全体を通して「国語総合」にある能力を育成するため、細かく設定した。

(5) 言語活動に対応した「具体的な評価規準の設定例」について

学習指導要領の改定によって、「2 内容」に「(1) 次の事項について指導する」とあるのに続き、「(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする」として、いわゆる「言語活動例」が記載された。これは現行の学習指導要領では、「3 内容の取扱い」に置かれていたものである。このように「指導事項」「言語活動例」を共に「2 内容」に記載するという構成の変更は、学習指導要領改訂の基本的な考え方のうち「言語活動を通して指導事項を指導することの重視」を受けたものである。

本研究では、こうした改訂のねらいを踏まえ、指導事項にある能力を身に付けさせるために適切な言語活動を設定し、選定した教材を用いた指導を想定して、言語活動に対応した「具体的な評価規準例」を設定した。

このように学習指導要領の内容を単元計画として具体化し、指導と評価の計画を立案する際には、次の3段階の過程が必要であり、その整合性に配慮する必要がある。

- ① 単元の指導目標として身に付けさせたい言語能力や態度を設定する。
→ 指導事項から取り上げる。
- ② 取り上げた言語能力等を身に付けさせるのにふさわしい言語活動を設定する。
→ 言語活動例などから取り上げる。
- ③ 取り上げた言語活動にふさわしい教材を選定する。

なお、本研究においては、原則として、指導事項を基に設定した各領域における「評価規準の設定例」【資料4】のそれぞれに対応させて、言語活動に応じた「具体的な評価規準の設定例」を示している。これは、該当の言語活動を通して身に付けさせることができる言語能力との組合せを例示することによって、単元計画立案の参考に資する目的によるものである。実際の指導に当たってはこの学習過程のいずれかを重点化して指導することが必要であり、指導事例においては重点化の例も示している。

また、指導事例において設定する言語活動は学習指導要領の言語活動例として挙げられているものから設定し、主たる教材は現行の「国語総合」で用いているものから選定することにした。

(6) 言語活動と対応する「具体的な評価規準の設定例」と単元化の例

指導事例として【資料3】に示す4事例を挙げた。内訳は「話すこと・聞くこと」の領域における単元化の1事例、「書くこと」の領域における単元化の2事例、「読むこと」の領域における単元化の1事例である。また、教材の分野は現代文を用いたものが2事例、古典を用いたものが2事例である。

【資料3】指導事例の領域等

	領域	言語活動	主な教材
指導事例1	話すこと・聞くこと	スピーチをする	随筆「書きたい気持ちを大切にしたい」井形慶子
指導事例2	書くこと	意見文を書く	評論「地球の有限性と人間 ー人口問題の視点より」竹内啓
指導事例3	書くこと	随筆を書く	「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」
指導事例4	読むこと	課題に応じて批評文を書く	『伊勢物語』『芥川』

単元案等の記載事項等については、原則として当センターの研究成果として公開している『授業の手引き（高等学校国語）』（平成18年3月）に従っている。

(7) 授業改善に生かしやすい年間学習指導計画の形式について

来年度以降、【資料1】等から明らかになった「国語科年間学習指導計画」にみられる課題を踏まえ、授業改善につながる年間学習指導計画の形式等を工夫する必要があると考える。

その際に配慮すべき事項として以下の3点が考えられる。第1に、学習指導要領にある指導事項との関係が明らかな評価規準を記載する形式であること。第2に、指導事項とこれを指導するための言語活動とを記載する形式であること。第3に、科目における指導事項についてバランスよく指導できる計画となっていることが確認できる形式であること。

具体的な形式において、年間の指導と評価の計画との関連を明示したマトリックス形式が適切であるかどうかについては、本年度の検討からは結論に至っていない。ただし、形式にかかわらず各学校における活用のしやすさに配慮して、来年度以降、電子データによって案や形式を提供することについても検討したい。

4 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめに代えて

本研究は、平成15年度からの現行学習指導要領実施に当たり、当センターにおける研究成果として示したものを受けた研究であり、基本的な考え方は先の研究を継承している。ただし、この間に、学校教育において思考力・判断力・表現力をはぐくむ礎となる言語能力を育成する教科としての国語科の役割の重さが一層強調されるようになってきている。この役割を果たすために、国語科において言語活動と言語能力との関係を強く意識した指導がなされるべきことを踏まえ、各学校の国語科の授業改善に資するべく、十分な成果としてまとまっていながらも、具体例を挙げて研究の中間報告を行うことにした。平成25年度からの新学習指導要領実施を控え、各学校における様々な課題や有効な実践の工夫などをお示しいたきつつ、研究を継続していく必要がある。

(2) 今後の課題

「2 研究の方法」にも記したが、以下の点が今後の課題である。

- ア 授業改善に生かしやすい年間学習指導計画の形式を示すこと。
- イ 国語科の評価の5観点について評価規準の例を示すこと。

ウ 評価規準と言語活動との関係を明確にした年間学習指導計画案を作成し、これに位置付けた授業を実践して成果を検証すること。

本研究に示す指導事例は、言語活動を通して指導事項にある能力を育成し、これを評価するための事例であるが、これをまとめるに際しては研究会において当初予想した以上の困難があった。これまで国語科の教科指導において多彩な言語活動を指導してきた蓄積があるにもかかわらず、これを見直す過程では、指導事項との適合性について慎重な検討が必要であり、特定の言語活動を通して指導する領域でさえ必ずしも固定したものではなく、どのような単元化を図るのが重要であるということに改めて気付くことになった。

ここに示した中間報告の内容も実践を重ねることによって不備が明らかになるものと考えている。本研究の目的は、この研究に当たった研究会の名称にもある「教科指導の充実」であり、各学校における効果的な工夫について本研究会にお示しいただきつつ研究を継続したい。

【資料４】評価規準の設定例

A 「話す・聞く能力」に関する評価規準の設定例（12 項目）

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「話す・聞く能力」に関する 評価規準の設定例（12 項目）	重点化	言語活動における 具体的な 評価規準 の設定例
ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。	a ① 話題について自分なりの課題意識を持ち、問題や論点を見つけている。		
	a ② 話題について様々な角度から検討している。		
	a ③ 意見を述べるときに、自分の意見の根拠を明確にしている。		
	a ④ 自分の考えを、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。		
イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。	b ① 目的や場に応じて、伝達すべき内容がよく伝わるように、資料や機器を活用して話している。		
	b ② 目的や場にふさわしい表現で話している。		
	b ③ 目的や場に応じて的確に聞き取り、必要に応じてメモや要約をしたり、質問や感想などを述べたりすることができる。		
ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。	c ① 相手の考えの基となる事実、考えを形成する過程等や、自分の意見との共通点や相違点について整理したり質問したりして相手の考えを的確に理解して話し合っている。		
	c ② 話の構成や展開、言葉遣いといった論理的な側面と、表情や声の調子等の情意的な側面とに配慮して話し合っている。		
	c ③ 話合いの目的を理解して、司会者や提案者などの役割を果たしたり、話合いの展開を考えたりしている。		
エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d ① 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方を豊かにすること。		
	d ② 話したり聞いたり話し合ったりした際の表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てている。		

B 「書く能力」に関する評価規準の設定例（9 項目）

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「書く能力」に関する 評価規準の設定例（9 項目）	重点化	言語活動における 具体的な 評価規準 の設定例
ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	a ① 相手や目的に応じて題材を選び、集めた材料の中から必要なものを取捨選択している。		
	a ② 相手や目的に応じて適切な文章の形態や文体、語句を選んで書いている。		
イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。	b ① 自らの考えを説得力のある文章で表現するために、思考を整理し、論理の構成や展開を工夫して書いている。		
	b ② 客観性のある資料を根拠として、論理的な展開の文章を書き、自分の考えをまとめている。		
ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考え	c ① 事実と意見、中心的な部分と付加的な部分との関係を明らかにするなどして、事柄を具体的に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりしている。		

て書くこと。	c② 表現技法等の表現の仕方を工夫するなどして、物事の様子や心情等を描写している。		
エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d① 内容や表現の優れた文章に接して、その優れた点を分析し、表現に役立てている。		
	d② 文章の内容や表現などについて、自己評価や相互評価することで、表現に役立てている。		
	d③ 幅広く文章を読んで、文章を書くのに必要なものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。		

C 「読む能力」に関する評価規準の設定例（15項目）

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「読む能力」に関する 評価規準の設定例（15項目）	重点化	言語活動における 具体的な 評価規準 の設定例
ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	a① 文学的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		
	a② 論理的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		
	a③ 実用的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		
イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	b① 文脈をとらえ、語句や表現に注意して、筆者の考えなどを過不足無く理解している。		
	b② 読む必要に応じて、文章を要約している。		
	b② 読む必要に応じて、文章の一部を詳述している。		
ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	c① 表現に即して、登場人物の、行動や性格、ものの見方、感じ方、考え方、ひいては生き方を的確にとらえて、人物個々の心情の変化や、人物相互の関係の変容を読み取っている。		
	c② 情景が、人物の心情の反映や象徴、物事が起こる予兆などとして設定されていることを理解し、表現に即して、人物の言動、置かれている状況を理解する手掛かりとしている。		
	c③ 登場人物の心情に思いをいたし、自らの生き方と重ね合わせて共感したり反発したりしている。		
エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	d① 文章の組立て等の構成と、考えの進め方や内容の推移等の展開を確かめている。		
	d② 文章の内容や表現の仕方について、規準や根拠を明確にして判じることができる。		
	d③ 段落に注目し、書き手の思考の流れから強調点を読み取り、執筆動機や表現意図を考えている。		
オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	e① 文学的、論理的、実用的文章等幅広い形態の、多様な内容の文章を、様々な方法で探して読んでいる。		
	e② 本や文章によって得た情報を選択、評価、加工している。		
	e③ 幅広く本や文章を読み、書き手の意図をとらえ、読み味わうことによって自分なりの考えをもつようになっている。		

・参考文献等

- 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 平成 21 年 3 月公示
- 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説』 平成 22 年 6 月
- 中央教育審議会 「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善等について（答申）」 平成 20 年 1 月
- 文部科学省初等中等教育局長通知 「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」 平成 22 年 5 月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価規準の作成のための参考資料」 平成 22 年 11 月
- 大滝一登 「高等学校国語科の年間指導計画の有効性を高めるための工夫 ―成長するカリキュラムの作成と評価に向けて―」 『岡山県総合教育センター研究紀要第 2 号』 平成 20 年
- 愛知県総合教育センター 「高等学校国語科における評価規準，評価方法等のあり方に関する研究 ―「国語総合」年間学習指導計画の作成を中心に（中間報告）―」 『総合教育センター研究紀要第 92 集』（平成 14 年度）
- 愛知県総合教育センター 「高等学校国語科における評価規準，評価方法等のあり方に関する研究 ―「国語総合」年間学習指導計画の作成及びその指導と評価について―」 『総合教育センター研究紀要第 93 集』（平成 15 年度）

【指導事例１】「国語総合」「話すこと・聞くこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導（スピーチ）

１ 「国語総合」「話すこと・聞くこと」の指導事項と言語活動例

新学習指導要領（平成 21 年 3 月公示）第 2 章，第 1 節国語，第 2 款各科目，第 1 国語総合の「2 内容，A 話すこと・聞くこと」に「(1) 次の事項について指導する」として，次の 4 項目がある（以下「指導事項」）。

- ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち，根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。
- イ 目的や場に応じて，効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために，相手の立場や考えを尊重し，表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。
- エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い，自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。

また，「(2) (1) に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする」として，次の 3 例が取り上げられている（以下「言語活動例」）。

- ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり，資料に基づいて説明したりすること。
- イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり，内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。
- ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら，課題に応じた話合いや討論などを行うこと。

「話すこと・聞くこと」の指導事項においては，「話題設定（指導事項ア）」・「話すこと・聞くこと（指導事項イ）」・「話し合うこと（指導事項ウ）」・「交流・評価（指導事項エ）」といった学習の過程に沿った構成がなされている。これは，小学校及び中学校において学習の過程に沿った内容の構成がなされていることを受けるとともに，「各教科・科目等の指導に当たっては，生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。（「総則」第 5 款の（5））とも関連している。

こうした改訂のねらいを踏まえ，指導事項と具体的な単元の指導とを対応させ，指導改善を図るために，【資料 1】「具体的な評価規準の設定例（話す・聞く能力）」の表中『話す・聞く能力』に関する評価規準の設定例のように細分化した。例えば，指導事項アは，a ①から a ④までの 4 事項に細分化しており，指導事項アから指導事項エまでの 4 事項は a ①から d ②までの合計 12 事項の評価規準例に分割した。実際の指導においては，これらのうち複数を同時に指導することも多いが，指導の重点を明確化し，指導の重点を明確化し，「国語総合」の指導の全体を通してバランスよく指導をするために細かく設定した。

本指導事例では、単元の評価規準とすることのできる例として、指導事項を基に設定した12事項のそれぞれに対応させて、言語活動に応じた具体的な評価規準の設定例を当てる。また、設定する言語活動は学習指導要領の言語活動例として挙げられているものの中から設定し、教材は現行の「国語総合」の教科書から選定する。

2 状況に応じた話題を選んでスピーチする言語活動を通した指導

(1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「話すこと・聞くこと」の領域における指導事項から設定した12事項に「言語活動例ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること」を組み合わせたものが、【資料1】の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。なお、言語活動例には「スピーチ」・「説明」が例示されているが、ここでは前者の「状況に応じた話題を選んでスピーチする」を設定した。

指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、「スピーチ」という言語活動においても、「話題設定（指導事項ア）・話すこと・聞くこと（指導事項イ）・話し合うこと（指導事項ウ）・交流・評価（指導事項エ）」のそれぞれに対応した指導を実施することが可能であり、【資料1】における評価規準の設定例では、12項目の全てについて記載した。

指導に際しては、「話すこと・聞くことを主とする指導には15～25単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。（4内容の取扱い(2)ア）」として示されている授業時間の目安に従って立案する、年間の指導と評価の計画の見通しによって重点化して取り上げることになる。

例えば、指導事項イを基に設けた「b① 目的や場に応じて、伝達すべき内容がよく伝わるように、資料や機器を活用して話している」の事項は、スピーチの目的や場に応じて内容にふさわしい資料や機器の活用について指導することも想定できる。しかし、年間計画の中にスピーチとは別に、言語活動例の後半にある「資料に基づいて説明する」等の言語活動が設定されているならば、この言語活動に関する重点項目とはしないことも考えられる。

また、指導事項ウを基に設けた「c① 相手の考えの基となる事実、考えを形成する過程等や、自分の意見との共通点や相違点について整理したり質問したりして相手の考えを的確に理解して話し合っている」の事項は、グループ内でのプレスピーチを基にして話し合う場面において指導することも想定できるが、生徒の実態や指導時間の配分によってはこの単元における重点項目としないこともある。ただしその場合は、年間計画で「スピーチ」という言語活動とは別に、「c① ……相手の考えを的確に理解して話し合っている」という事項について指導するために、例えば「言語活動例ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと」に類する言語活動が設定されていることが必要である。

このように、「スピーチ」という言語活動を通して指導することができる指導事項であっても、年間計画全体の見通しによって、この単元での重点項目とすることの必要性を検討する必要がある。もちろん、ここで指導と評価の重点として扱わない事項であっても、生徒の学習活動を制限するものではない。例えば、「資料を提示してスピーチをする」、「メモを取りながら聞き、発表者に質問をする」などといった学習活動は望ましいものであり、ここでは資料の作成やメモの取り方について指導と評価を位置付けていないということである。

先に、指導の全体を通して指導事項の一部が抜け落ちることが無いようにするために、指導事項を

基に12事項の評価規準例に細分化したと述べたが、このように細分化することによって指導の重点を定めやすくなることも利点である。

(2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。

まず、高等学校1年1学期の実施を想定した単元とすること。

次に、対応する指導事項は、「指導事項ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること」、「指導事項エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」を設定すること。

また、上記の指導事項を、言語活動例アにある「状況に応じた話題を選んでスピーチする言語活動」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の点を考えて教材を選定するが、まず、「話題について様々な角度から検討して自分の考え」をもつためには、述べるべき内容について複数の立場から検討しやすい話題を設定する必要がある。また、学年の早い時期でもあり、生徒にとって親しみやすく、しかも高等学校で国語を学習する初期にふさわしい話題が望ましい。

また、「話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」という交流・評価の意義を体得させるために、グループや学習集団全体で互いの考えを聞き合うことの意義や楽しさを感じさせ、学習意欲を喚起できる教材であることが望ましい。

そこで、「国語総合〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(ア)国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること」に関連して、生徒の身近な言語生活の経験を通して、言語の役割について考えることのできる教材として、教科書掲載の次の教材を選定した。

教材 『高等学校 改訂版 標準国語総合』第一学習社 随想 (一)「書きたい気持ちを大切にしたい」井形慶子

この教材は、携帯電話等の普及などによって「書く」スタイルが変容しても、人が書いた言葉には話し言葉にはない力が宿っているということを述べた随想である。ファックス、手紙、カード、携帯メール等の豊富な事例があげられていること、自分自身に向けて書いた言葉にも同様の力があると述べていることなどから、自分自身の経験を振り返り、「書くこと」について考える契機とするにふさわしい教材であるといえる。

(3) 単元の計画

単元案

- ・ 単元名 「書くこと」についてスピーチする。
- ・ 教材 「書きたい気持ちを大切にしたい」井形慶子
(「高等学校 改訂版 標準国語総合」第一学習社)
- ・ 単元の目標 (一)「書くこと」について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。

(二)「書くこと」についてのスピーチをしたり、聞いたりして、「書くこと」についての考え方などを豊かにする。

- 単元の評価規準 (一) 教材文を読み、「書く」スタイルの変容、「書くこと」によるメッセージの伝わり方について考えている。(a ①)

(二) 電話と携帯メール、手紙とメールなどを比較したり、自分自身の経験をもとにして「書くこと」や「書かれたメッセージを受け取ること」について考えたりして、「書くこと」について様々な角度から検討している。

(a ②)

(三)「書くこと」について、自分の意見とその根拠とを明確にしている。

(a ③)

(四) 自らの意見の根拠となる事柄を箇条に分けて示したり、考えをまとめるに至った過程をたどりながら説明したりするなどの工夫をして意見を述べている。(a ④)

(五) プレススピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行って、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。(d ①)

・ 配当時間 全4時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1	・ 教材文「書きたい気持ちを大切にしたい」を読み、「書く」スタイルの変容、「書くこと」と「話すこと」とによるメッセージの伝わり方の相違について考える。	a ① 教材文を読み、「書く」スタイルの変容、「書くこと」によるメッセージの伝わり方について考えている。
2	・ 「書くこと」や「書かれたメッセージを受け取ること」について教材の内容と、自分の経験等を基に考えをまとめ、構成を工夫してスピーチメモを作成する。	a ② 電話と携帯メール、手紙とメールなどを比較したり、自分自身の経験をもとにして「書くこと」や「書かれたメッセージを受け取ること」について考えたりして、「書くこと」について様々な角度から検討している。 a ③ 「書くこと」について、自分の意見とその根拠とを明確にしている。 a ④ 自らの意見の根拠となる事柄を箇条に分けて示したり、考えをまとめるに至った過程をたどりながら説明したりするなどの工夫をして意見を述べている。
3	・ グループ内でプレススピーチを実施し、自己評価・相互評価を基にして助言しあい、代表を選ぶ。	d ① プレススピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行って、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。
4	・ グループの代表によるスピーチを実施して相互評価し、「書くこと」について考えたことをワークシートに書く。	d ① プレススピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行って、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。

(4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成○年○月○日

二 クラス 第○学年○組

(「三 単元」,「四 教材」,「五 単元の目標」,「六 単元の評価規準」,「七 指導計画」,「八 本時の目標」,「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照。)

十 本時の指導 (全4時間分を掲載)

・4時間中の1時間目

学習 段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (10分)	・単元の目標理解	①・単元の目標と言語活動について確認する。 ②・「文字によるメッセージ」の例をグループ(7人程度)内であげる。	①・評価の観点を基にして,単元の目標を示す。 ・「書くこと」について3分間スピーチするという言語活動を示す。 ②・グループ内の事例を記録して提出させ,次時の資料として活用する。 【資料3】
展開 (30分)	・本文の音読 ・本文前半の読み取り ・本文後半の読み取り	③・指名読みの音読により,本文を通読する。 ・「書くこと」についての筆者の考えが述べられている部分に傍線を引く。 ④・グループ内で,③の傍線部を確認する。 ・文字で書かれたメッセージに関するエピソードを読み,筆者の「書くこと」についての考え方を各自がワークシートにまとめる。 ⑤・「書く」スタイルと書きたい気持ちの在り方の変化について筆者の考えを各自がワークシートにまとめる。	③・通読と語句の意味調べを予習として課す。 ・理解しにくい部分について④⑤で質問できるようにさせる。 ④・「筆者自身」,「欧米の家庭」,「五歳の少年」のそれぞれのエピソードから,「書く」行為によって「文字に置き換えられた心」が永遠の力をもつことを読み取らせる。 【資料2】 ・読み取りが難しい場合は,机間指導によって③の傍線部を確認させる。 ⑤・「手紙からメールへと形式は変わっても,『話す』ことよりも『書く』ことを選ぶ人が圧倒的に増えている」とことと「書きたい衝動」との関係を読み取らせる。 【資料2】
終結 (10分)	・筆者の叙述に対する自分の意見を簡潔に記す。	⑥・筆者の現状分析や主張についての自分自身の考えを振り返る。	⑥・「心を文字に置き換えたとき,それは永遠の輝きをそこにとどめる」「(手紙を大切にすることがどうかで,)人生は大きく変わってくる」「『話す』ことよりも『書く』ことを選ぶ人が圧倒的に増えている」といった筆者の叙述に共感するかどうかを「○」「?」といった記号と簡潔なコメントによってワークシートに記載する。 【資料2】 ★教材文を読み,「書く」スタイルの変容や,「書くこと」と「話すこと」とによるメッセージの伝わり方の相違について考えているかを,ワークシートへの記入に基づいて評価する。 (a ①)

	・次時の予告	⑦・次時（２・３時間目）の活動を理解する。	⑦・次時（２時間目）には、「書くこと」についてスピーチメモを作成し、３時間目にグループ内でプレススピーチを確認することを確認する。
--	--------	-----------------------	---

4 時間中の 2 時間目

学習 段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (15 分)	・ 本時の学習目標理解	①・本時の目標と言語活動について確認する。 ②・「書くこと」についての自分の考えとグループのメンバーの考えを確認し合い、自分の考えをまとめる。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 ・「書くこと」についてプレススピーチするためのメモを作成することを確認する。 ②・前時の「文字によるメッセージ」を伝えたり、受け取ったりした経験のまとめ、前時のワークシートへの記載を基にして感想を交換することを通して、「書くこと」についての考えをまとめさせる。 ・司会を決めて進行させ、感想や考えの共通点や相違点を明らかにさせる。
展開 (30 分)	・ スピーチメモの作成	③・自分の意見とその根拠を整理する。 ④・スピーチの構成などを工夫する。	③・自分の意見だけでなく、異なる立場の意見とその根拠についても整理させる。 【資料 4】 ・自分の意見が整理できない場合は、グループ内で 1 時間目⑥のワークシートに異なる記号を記載した生徒の考えと自分自身の考えとを比較させ、教材文を読んだ感想を述べさせることで、考えを整理させる。 ④・スピーチの構成で工夫する点をワークシートに記載させる。 「自分の意見を述べる位置」、「教材文の内容の引用の仕方」、「エピソードの紹介」、「考えをまとめた過程」等の例を示し、構成や内容を工夫させる。 【資料 4】 ★グループにおける話合いの様子を観察することと、ワークシートの記載に基づいて評価する。(a ②③④)
終結 (5 分)	・ 本時の確認と次時の予告	⑤・次時（３時間目）の活動を理解する。	⑤・次時（３時間目）には、スピーチメモに基づいてグループ内でプレススピーチをし、クラスで共有したいスピーチを代表として選ぶことを確認する。

4 時間中の 3 時間目

学習 段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (3 分)	・ 本時の学習目標理解	①・本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 ・グループは 7 人程度とし、スピーチ（3 分）と工夫のポイント申告、相互評価の記入と助言（3 分）とし、計時と進行の係を決めてスピーチをさせる。 ・グループの代表スピーチは、「書くこと」

			について、クラスで共有したい考え方が分かりやすく述べられているものとさせる。
展開 (45 分)	・グループ内の プレススピーチと 相互評価	②・プレススピーチをし、 相互評価をする。 ③・クラススピーチをする 代表を選ぶ。	②・前時④で構成などについて工夫した点を事前にグループ内に知らせたうえでスピーチをさせる。 ・「書くこと」についての考えの明確さと、その根拠を伝えるための工夫が効果を上げているかについて相互評価させる。【資料5】 ③・他のグループにも気付いてほしい良さを1点あげ、代表者のスピーチメモに記載させる。 ★グループにおけるプレススピーチの様子を観察することと、ワークシートの記載に基づいて評価する。(d①)
終結 (2 分)	・本時の確認と 次時の予告	⑤・次時（4 時間目）の 活動を理解する。	⑤・次時（4 時間目）には、クラススピーチをし、考え方や構成の工夫の良さを評価し合うことを確認する。 ・グループの代表者のスピーチメモを提出させ、クラスでスピーチの発表順決定の資料とする。複写等の控えを取って返却する。

4 時間中の 4 時間目

学習 段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5 分)	・本時の学習目 標理解	①・本時の目標と言語活 動について確認する。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 ・発表順は本時の開始前までには知らせておき、進行と計時には指導者があたる。 ・相互評価表の項目とは別に、代表スピーチのそれぞれについて、特に良かった点を挙げさせ、記入の後、前時の③においてグループ内で意図した項目と照らし合わせるができるようにする。
展開 (35 分)	・クラススピー チ	②・クラススピーチと相 互評価をする。 ③・単元を通して聞いて 「書くこと」について 考えたことを、代表ス ピーチと関連づけて記 載する。	②・発表順を掲示し、発表者は会場の前に立ってスピーチする。 ・1 人のスピーチ（3 分）ごとに 2 分程度の評価表記載時間を設ける。 ③・代表スピーチのうち、自分自身の「書くこと」についての考えを豊かにしてくれたものを 1 点選び、ワークシートに感想を記載する。【資料6】 ・自分自身の考えと比較しつつ、選んだスピーチにおける「書くこと」についての考え方について感想を述べる。【資料6】 ★ワークシートの記載に基づいて評価する。(d①)
終結 (10 分)	・講評とまとめ	④・スピーチについての 講評	④・指導者が、前時③で各グループが意図した代表スピーチの良さについて紹介し、代表者の意見の特長について講評する。 ・スピーチメモ、プレススピーチ評価表、クラススピーチ評価表を提出させる。

【資料１】「具体的な評価規準の設定例（話す・聞く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「話す・聞く能力」に関する 評価規準の設定例（12項目）	重点化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。	a ① 話題について自分なりの課題意識を持ち、問題や論点を見つけている。	○	・教材文を読み、「書く」スタイルの変容、「書くこと」によるメッセージの伝わり方について考えている。
	a ② 話題について様々な角度から検討している。	○	・電話と携帯メール、手紙とメールなどを比較したり、自分自身の経験をもとにして「書くこと」や「書かれたメッセージを受け取ること」について考えたりして、「書くこと」について、様々な角度から検討している。
	a ③ 意見を述べるときに、自分の意見の根拠を明確にしている。	○	・「書くこと」について、自分の意見とその根拠とを明確にしている。
	a ④ 自分の考えを、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。	○	・自らの意見の根拠となる事柄を箇条に分けて示したり、考えをまとめるに至った過程をたどりながら説明したりするなどの工夫をして意見を述べている。
イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。	b ① 目的や場に応じて、伝達すべき内容がよく伝わるように、資料や機器を活用して話している。		・クラスで発表する際に提示する資料を用意し、スピーチのどこで提示するかを工夫している。
	b ② 目的や場にふさわしい表現で話している。		・クラスでスピーチするのにふさわしい接遇表現を用い、聞き手に対して丁寧語を用いたり、必要に応じて敬語表現を用いて話したりしている。
	b ③ 目的や場に応じて的確に聞き取り、必要に応じてメモや要約をしたり、質問や感想などを述べたりすることができる。		・グループ内のプレススピーチやクラスでのスピーチを聞いて、主張の要点をメモしたり、質問や感想をワークシートに記載したりすることができる。
ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。	c ① 相手の考えの基となる事実、考えを形成する過程等や、自分の意見との共通点や相違点について整理したり質問したりして相手の考えを的確に理解して話し合っている。		・プレススピーチを聞いて、「書くこと」についての考えやその考えを形成する過程などについて、自分の意見との共通点や相違点を整理して意見を述べたり、質問したりして考えを深めている。
	c ② 話の構成や展開、言葉遣いといった論理的な側面と、表情や声の調子等の情意的な側面とに配慮して話し合っている。		・プレススピーチを聞いて助言しあう際に、グループ内での話合いに進んで参加し、相手の立場を尊重して自分の考えを述べている。
	c ③ 話合いの目的を理解して、司会者や提案者などの役割を果たしたり、話合いの展開を考えたりしている。		・プレススピーチをもとにしてグループ代表を選び、「書くこと」についての考えを深めるためのスピーチとして改善する点について司会者を決めて話し合う。
エ 話したり聞いたり話したりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d ① 話したり聞いたり話したりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方を豊かにすること。	○	・プレススピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行って、評価したりすることによって、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。
	d ② 話したり聞いたり話したりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てている。		・プレススピーチやスピーチの表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てている。

【資料2】「書くこと」について考えるためのワークシート例（1時間目）

「書きたい気持ちを大切にしたい」 年 組 番 氏名

- 1 「書きたい気持ちを大切にしたい」では次にあげたそれぞれのエピソードを通して、筆者のどのような考えが述べられているか。文中の語句を用いて次の表を完成させなさい。

書かれたものの例	エピソード	筆者の考えたこと	共感
これまでに受け取った手紙	・年頭に手紙を整理する時に、保管してある昔の手紙を読み返すと、どれだけたった後でも同じように胸が熱くなる。	(ページ 行目)	
昔もらったカードや手紙	・欧米の家庭では、家族の思い出話が始まると、	(ページ 行目)	
「おばあちゃんから来た手紙」「ママが書いた僕の顔」「男の子から筆者への手紙」	・五歳の男の子が普段から、 ・筆者が五歳の男の子からもらった手紙には、彼の知っている人々の顔が描かれており、	(ページ 行目)	

- 2 筆者は、「書く」ことにどのような変化がみられると述べているか。文中の語句を用いて次の表を完成させなさい。

これまでのスタイル	新しいスタイル	共感
カップルが長電話をする。	携帯電話で何時間も送受信を繰り返す。	
隣の席の社員と直接対話する。		
年賀状はお年玉付き年賀はがきで出す。		
クリスマスカードを郵送する。		

- 3 筆者は、「書くこと」の果たす役割がどのように変化していると述べているか。文中の語句を用いて次の表を完成させなさい。

私たちが、「書くこと」によって	共感
という傾向は、	

- 4 筆者は「書くことの偉大さ」をいろいろな表現で述べている。そのうち最も印象的な表現を用いて、「書くことの偉大さ」を簡潔にまとめなさい。

	共感

- 5 筆者の考えに共感する場合は「○」、共感できない場合は「？」を、2から4までの「共感」欄に記載しなさい。

また、「書く」スタイルの変化、「書くこと」と「話すこと」との違いについて、この文章を読んで感じたことや考えたことを書きなさい。

(「書く」スタイルの変化について)

「話すこと（しゃべり言葉）」は、
それと比較して「書くこと（書いた言葉）」は、

【資料3】「言葉によるメッセージ」（グループごとの記録用紙）の例（1時間目）

《文字によるメッセージ》□班 〈特定の相手に向けて〉	特 定 の 人 か ら	〈不特定の相手に向けて〉
	不 特 定 の 人 か ら	

【資料4】スピーチメモの例（2時間目）

スピーチメモ 「書くこと」についてスピーチする 年 組 番 氏名 スピーチの構成メモ 項目が足りないときは付け足すこと。	※ プレスピーチでアピールしたい項目に○をつけておく。 (内容に関するメモ) 1 「書くこと」についての考え方 2 想定できる別の考え方 3 根拠として例示するエピソードなど 4 その他 教材から引用する内容 考え方が変化したプロセス その他 (構成に関するメモ) 1 自分の考え方（結論）の位置 始め 終わり 繰り返す 2 根拠を述べる位置 結論の後で根拠をあげる 根拠をあげてから結論を述べる 3 その他 教材からの引用の役割（補強・否定） その他												
<table border="1"> <tr><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td></tr> </table>	1		2		3		4		5		6		
1													
2													
3													
4													
5													
6													
クラススピーチで評価してほしい点													

【資料５】相互評価表例（３時間目）

ブレスピーチ相互評価表

「書くこと」についてスピーチする 年 組 番 氏名

※ 次の項目について「○△×」の３段階で相互評価する。

- １ 意見が明確に伝わる。 ２ 考えの根拠が分かりやすい。 ３ 聞き取りやすい。
４ 工夫は効果的である。

班					
発表者	１ 意見	２ 根拠	３ 話し方	４ 工夫	５ コメント

【資料６】相互評価表例（４時間目）

クラススピーチ評価表

「書くこと」についてスピーチする 年 組 番 氏名

〔１〕スピーチを聞いて次の項目について「◎○△」の３段階で評価する。

- １ 意見が明確に伝わる。 ２ 考えの根拠が分かりやすい。 ３ 聞き取りやすい。

	発表者	１ 意見	２ 根拠	３ 話し方	４ 特によい点
１					
２					
３					
４					
５					
６					

〔２〕クラススピーチから１点を選び、その発表者に向けて感想を述べなさい。ただし、自分自身の「書くこと」についての考え方も発表者に伝わるように双方の考え方を比較して書きなさい。

【指導事例 2】「国語総合」「書くこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導 1（意見文）

1 「国語総合」「書くこと」の指導事項と言語活動例

新学習指導要領（平成 21 年 3 月公示）第 2 章，第 1 節国語，第 2 款各教科，第 1 国語総合の「2 内容，B 書くこと」に「(1) 次の事項について指導する。」として，次の 4 項目がある（以下「指導事項」）。

- ア 相手や目的に応じて題材を選び，文章の形態や文体，語句などを工夫して書くこと。
- イ 論理の構成や展開を工夫し，論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
- ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど，適切な表現の仕方を考えて書くこと。
- エ 優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。

また，「(2) (1) に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。」として，次の 3 例が取り上げられている（以下「言語活動例」）。

- ア 情景や心情の描写を取り入れて，詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。
- イ 出典を明示して文章や図表などを引用し，説明や意見などを書くこと。
- ウ 相手や目的に応じた語句を用い，手紙や通知などを書くこと。

「書くこと」の指導事項においては，「題材選定・取材・表現の工夫（指導事項ア）」・「構成（指導事項イ）」・「記述（指導事項ウ）」・「推敲・交流・評価（指導事項エ）」といった学習の過程に沿った構成がなされている。これは，小学校及び中学校において学習の過程に沿った内容の構成がなされていることを受けるとともに，「各教科・科目等の指導に当たっては，生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。（「総則」第 5 款の(5)）」とも関連している。

こうした改訂のねらいを踏まえ，指導事項と具体的な単元の指導と対応させ，指導改善を図るために，【資料 1】「具体的な評価規準の設定例（書く能力）」の表中『書く能力』に関する評価規準の設定例のように細分化した。例えば，指導事項のアは，a ①と a ②の 2 事項に細分化しており，指導事項アから指導事項エまでの 4 事項は a ①から d ③までの合計 9 事項の評価規準例に分割した。実際の指導においては，これらの複数を同時に指導することも多いが，指導の重点を明確化し，「国語総合」の指導の全体を通してバランスよく指導するために，細かく設定した。

本指導事例では，単元の評価規準とすることのできる例として，指導事項を基に設定した 9 事項のそれぞれに対応させて，言語活動に応じた具体的な評価規準の設定例を当てることを原則とする。また，設定する言語活動は学習指導要領の言語活動例として挙げられているものの中から設定し，教材は現行の「国語総合」の教科書から選定する。

2 出典を明示して資料などを引用し，説明や意見などを書く言語指導を通じた指導

(1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「書くこと」の領域における指導事項から設定した9事項に「言語活動例イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと」を組み合わせたものが、【資料1】の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。

学習指導要領の指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、「意見文を書く」という言語活動においても、「題材選定・取材・表現の工夫（指導事項ア）」・「構成（指導事項イ）」・「記述（指導事項ウ）」・「推敲・交流・評価（指導事項エ）」のそれぞれに対応した指導を実施することが可能である。

ただし、構成に関する指導事項イに関わるb②は論理的な文章において客観性のある資料を用いることについての事項であるため、該当しない単元もある。

また、記述に関する指導事項ウに関わるc①とc②とは単元によっていずれが該当しないことも考えられる。これは指導事項を細分化するに当たり、c①の主に論理的文章の記述における説明に関する指導と、c②の主に文学的文章における描写に関する指導とを分けたためである。記述の目的などに応じて説明や描写を使い分ける能力が必要ではあるが、まず、生徒の実態に応じ、描写に関する指導は、言語活動例アにあげられているような詩歌、随想などの文学的文章を書くことの指導を通して行うことが適当であると考ええる。

指導に際しては、「書くことを主とする指導には30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。（4内容の取扱い(3)ア）」として示されている授業時間の目安に従って立案する、年間の指導と評価の計画の見通しによって重点化して取り上げることになる。

例えば、指導事項ウを基に設けた「c① 事実と意見、中心的な部分と付加的な部分との関係を明らかにするなどして、事柄を具体的に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりしている」の事項は、意見文を書くという言語活動においても重点的に指導することが想定できる。しかし、資料の読み取りについて論理的に説明する文章の書き方については参考にできるモデルを示すことによって生徒の負担を軽減する配慮をし、ここでは指導の重点項目としないことも考えられる。その際、年間計画には「説明」について指導する別の単元があることが前提となる。

このように、「資料などを引用し、説明や意見などを書く」という言語指導を通して指導することができる指導事項であっても、年間計画全体の見通しによって、この単元で重点項目とすることの必要性を検討する必要がある。ここで指導と評価の重点として扱わない事項であっても、意見文を書く過程では欠かせない学習活動そのものは含まれており、この単元で指導と評価を位置付けないということである。

(2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。

まず、高等学校1年「国語総合」、「読むこと」の領域の論理的文章を読むことについて指導する単元の後に設定すること。生徒の実態にもよるが、同じ教材による「読むこと」の単元に続く、「書くこと」の単元を設定するのが効果的であるという考えによる。

次に、対応する指導事項は、「指導事項ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと」、「指導事項イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること」を設定すること。

また、上記の指導事項を、言語活動例イにある「出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の点を考えて教材を選定するが、まず、「論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる」ことについて指導するためには、考えを述べる題材に応じた客観的で信頼性の高い資料を選択できることが必要である。ウェブページ等も利用して、入手しやすい文章や図表など複数の資料から適切なものを選択し、それを論拠として考えを述べることのできる教材が望ましい。

また、「相手や目的に応じて題材を選」んで書くという題材選定の意義を体得させるために、異なる立場の考え方を挙げつつ、その長短を論じて結論を導いている評論文を教材とし、内容についての共通理解を前提として意見を述べる文章を書かせることにする。これによって題材として取り上げる内容について一定の関心をもっている「相手（読み手）」という設定を意識させることができるだけでなく、教材文における主張と意見を同じくするか異にするかにかかわらず、論拠の確かさに重点をおいて意見を述べるという目的を明確化することができる。

そこで、「国語総合」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「(6)ウ(オ)科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げることに役立つこと」「(6)ウ(キ)人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めることに役立つこと」に関連して教科書掲載の次の教材を選定した。

教材 『高等学校 改訂版 国語総合』三省堂
評論 (二)「地球の有限性と人間 ―人口問題の視点より」竹内啓

この教材は、資源・環境問題について同時代の地域間、現代と将来の世代間における公正の観点から考えている評論であり、現代の一般的な論調を引きつつ、その不都合を指摘することを繰り返しつつ筆者自身の論を展開している。

また、この評論にある様々な考え方について、生徒自身の考えを述べる際の論拠として環境省がウェブページに公開している『環境・循環型社会・生物多様性白書』の内容を引用させることにする。HTML版を用いることで、章ごとの内容の分かりやすい目次から、必要な資料が掲載された本文にアクセスし、必要に応じてプリントアウトして手元に置くこともできる。また、「図で見る環境白書」や過年度の白書も同じ環境省のページからアクセスすることができ、習熟度や興味に応じて引用する資料の範囲を指定することも容易である。

(3) 単元の計画

単元案

- ・ 単元名 統計資料をもとに意見文を書こう。
- ・ 教材 ・「地球の有限性と人間―人口問題の視点より」竹内啓
(『高等学校 改訂版 国語総合』三省堂)
・平成22年版『環境・循環型社会・生物多様性白書』環境省
- ・ 単元の目標 相手や目的に応じて題材を選び、論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
- ・ 単元の評価規準 (一) 教材文に述べられている筆者の考えに賛成したり、反対したりする意見文の題材を選び、自分の考えを述べるために「環境・循環型社会・生物多様性白書」から適切な資料を選択している。(a①)
(二) 教材文に述べられた筆者の意見と自分自身の意見との関係が明らかになる

ように、「序論（論点の提示）－本論（考えの根拠）－結論（結論と展望）」などの論理の構成や展開を工夫している。（b①）

（三）「環境・循環型社会・生物多様性白書」にある資料とそれを根拠にした考えが、意見文全体の主張と整合性をもって述べられている。（b②）

（四）教材文に述べられている考えのうち同一のものを題材にした意見文の構成や意見について、自己評価や相互評価をして、説得力のある意見文について考えている。（d②）

・ 指導計画 全4時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1	・教材文に述べられている筆者の考えや筆者とは立場を異にする考えと、「白書」から選択した内容とを関連付け、文中の考えに賛成したり反対したりする意見を述べる題材を設定する。	a① 教材文に述べられている筆者の考えに賛成したり、反対したりする意見文の題材を選び、自分の考えを述べるために「環境・循環型社会・生物多様性白書」から適切な資料を選択している。
2 3	・教材文に述べられた筆者の意見と自分自身の意見との関係が明らかになるように、「序論（論点の提示）－本論（考えの根拠）－結論（結論と展望）」などの論理の構成や展開を工夫し、800字以内の意見文を書く。 ・『環境・循環型社会・生物多様性白書』にある資料とそれを根拠にした考えを、意見文全体の主張と整合性をもって述べる。	b① 教材文に述べられた筆者の意見と自分自身の意見との関係が明らかになるように、「序論（論点の提示）－本論（考えの根拠）－結論（結論と展望）」などの論理の構成や展開を工夫している。 b② 『環境・循環型社会・生物多様性白書』にある資料とそれを根拠にした考えが、意見文全体の主張と整合性をもって述べられている。
4	・教材文に述べられている筆者の考えのうち同一のものを題材にした意見文の構想や意見について、自己評価や相互評価をして、説得力のある意見文について考える。	d② 教材文に述べられている考えのうち同一のものを題材にした意見文の構成や意見について、自己評価や相互評価をして、説得力のある意見文について考えている。

(4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成○年○月○日

二 クラス 第○学年○組

（「三 単元」、「四 教材」、「五 単元の目標」、「六 単元の評価規準」、「七 指導計画」、「八 本時の目標」、「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照。）

十 本時の指導（全4時間分を掲載）

・ 4時間中の1時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5分)	・本時の学習 目標理解	①・単元の目標と言語活動について確認する。 ・意見文の題材を決めることを理解する。	①・評価の観点を基にして、単元の目標を示す。 ・「資源・環境問題」について800字以内の意見文を書くという言語活動を示す。
展開 (40分)	・教材文の内容 確認 ・資料の選択	②・教材文に述べられている筆者の考えや、筆者とは立場を異にする考えを確認し、意見を述べる題材を考える。 ③・『白書』の内容と自分の意見とを関連付	②・筆者の意見、筆者とは異なる意見を分けて整理する。 ・教材にある考えに対する自分の立場を仮に決めワークシートに記入させる。【資料2】 ③・環境省『環境・循環型社会・生物多様性白書』から資料を選択し、資料から読み取る

		け，論拠となる資料を選択し，必要な資料をプリントアウトする。	内容をまとめる。複数資料の関連を考えさせる。 【資料3】 ・コンピュータ室を利用する。 ・資料を選択することが難しい生徒にはグラフ「世界及び各地域の人口推移」（図序 2-1），グラフ「世界の地域・グループが世界全体に占めるGDPシェアの推移」（図序 2-28），表「各国における 2020 年の再生可能エネルギーの導入目標一覧」（表序 2-1）などの資料を指定する。 ★自分の意見と論拠となる資料とを関連付けているかをワークシートへの記入に基づいて評価する。（a ①）
終結 （5 分）	・次時の予告	④・次時（2・3 時間目）の活動を理解する。	④・次時からの 2 時間で，文章の構成と，論拠としての資料の妥当性について考えて意見文を書くことを予告する。

・4 時間中の 2・3 時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 （5 分）	・本時の学習目標理解	①・本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして，本時の目標を示す。 ・文章の構成と，論拠としての資料の妥当性について考えて 800 字以内の意見文を書くこと確認する。
展開 （40 分）	・資料の分析 ・文章の構成 ・意見文を書く。	②・自分の意見とその論拠をワークシートに整理する。 ③・意見文の構成を考えてワークシートに記載する。 ④・意見文を書く。	②・教材にある意見と自分の意見の関係，自分の意見と資料から読み取れる内容との関係について整理させる。 【資料3】 ・複数の資料を組み合わせる効果について考えさせる。 ③・意見文の構成を考えさせる。 ・「序論（論点の提示）ー本論（考えの根拠）ー結論（結論と展望）」の構成を基本として示す。 【資料3】 ・構成について生徒間で相互に検討させる。 ④・意見文を書かせる。 ★意見文の構成と意見文の内容についてワークシートの記載と意見文に基づいて評価する。（b ①②）
終結 （5 分）	・本時の確認と次時の予告	⑤・次時（4 時間目）の活動を理解する。	⑤・次時（4 時間目）には，意見文を相互評価し合うことを予告する。

・4 時間中の 4 時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 （5 分）	・本時の学習目標理解	①・本時の目標と言語活動について理解する。	①・評価の観点を基にして，本時の目標を示す。 ・意見文の題材によって相互評価のためのグループを指定する。
展開 （35 分）	・相互評価	②・意見文を相互評価する。	②・教材文にある考えのうち同一のものを題材として意見文を書いた生徒同士で作品を読み，相互評価させる。 ・教材文にある考えのうち異なるものを題材として意見文を書いた生徒同士で作品を読み相互評価させる。 ・評価表と口頭によって評価させる。 ★評価表の記載に基づいて評価する。（d ②）
終結 （10 分）	・単元のまとめ	③・意見文についてのまとめをする。	③・教材文の考えに賛成，反対のそれぞれの立場による意見文の優れた点について，指導者が具体例を挙げて紹介する。

【資料1】「具体的な評価規準の設定例（書く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「書く能力」に関する 評価規準の設定例（9項目）	重 点 化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	a ① 相手や目的に応じて題材を選び、集めた材料の中から必要なものを選択している。	○	・教材文に述べられている筆者の考えに賛成したり、反対したりする意見文の題材を選び、自分の考えを述べるために「環境・循環型社会・生物多様性白書」から適切な資料を選択している。
	a ② 相手や目的に応じて適切な文章の形態や文体、語句を選んで書いている。		・論理的な文章を書くための文体や語句を選んで書いている。
イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。	b ① 自らの考えを説得力のある文章で表現するために、思考を整理し、論理の構成や展開を工夫して書いている。	○	・教材文に述べられた筆者の意見と自分自身の意見との関係が明らかになるように、「序論（論点の提示）－本論（考えの根拠）－結論（結論と展望）」などの論理の構成や展開を工夫している。
	b ② 客観性のある資料を根拠として、論理的な展開の文章を書き、自分の考えをまとめている。	○	・『環境・循環型社会・生物多様性白書』にある資料とそれを根拠にした考えが、意見文全体の主張と整合性をもって述べられている。
ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	c ① 事実と意見、中心的な部分と付加的な部分との関係を明らかにするなどして、事柄を具体的に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりしている。		・資料から読み取ることのできる事実や、そこから結論に至る考えを論理的に述べている。
	c ② 表現技法等の表現の仕方を工夫するなどして、物事の様子や心情等を描写している。		・該当なし
エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d ① 内容や表現の優れた文章に接して、その優れた点を分析し、表現に役立てている。		・教材文に引用されている「二酸化炭素排出量の比較(2000年)」のデータの筆者による分析と、それに基づく主張とを整理している。
	d ② 文章の内容や表現などについて、自己評価や相互評価することで、表現に役立てている。	○	・教材文に述べられている考えのうち同一のものを題材にした意見文の構成や意見について、自己評価や相互評価をして、説得力のある意見文について考えている。
	d ③ 幅広く文章を読んで、文章を書くのに必要なものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。		・教材文、『環境・循環型社会・生物多様性白書』の関連部分を読むことを通して、公正に判断し、論理的な見方をして意見文を書いている。

【資料2】「環境問題」について考えるためのワークシート例（1時間目）

「地球の有限性と人間 - 人口問題の視点より」 年 組氏名

・「意見」欄に賛成（○），反対（×）を記入し、意見文の題材としたいもののページ欄に○をつけなさい。

ページ	筆者の考え	意見	ページ	筆者と異なる考え	意見
53	・公害問題や環境汚染への対処の仕方については、知識や経験の積み重ねがあり、人口との関係で解決不可能な問題とはいえない。				
55	・大気中の二酸化炭素の増大による温暖化の問題のような地球環境問題は、地球上に維持できる人口に限界があることを意味している。				
56	・人間社会への自然の制約を完全に打破することは不可能であり、これまでも自然の制約によって文明の発達が停滞したり、逆行したりすることもあった。				
57	・人間社会への自然の制約の新しい形が、資源問題や環境問題である。				
57	・科学技術の発展により、人間が自然条件を変え、人間の主体の基盤を破壊してしまう危険性がより大きくなっている。				
58	・近代以前の技術による自然破壊も、起こってしまえば回復は著しく困難である。		57	・近代の科学技術は特に破壊的な力が強い。	
58	・近代科学技術は破壊的な力だけでなく、破壊を修復する力も強い。		57	・近代以前の技術は自然と調和的であった。	
			58	・人間は自然を思いのままにできる。	
58	・環境破壊に関するどんな問題に関しても解決の方向はある。		58	・人間の環境破壊によって、人類の文明は減んでいく。	
59	・自然との緊張関係の中で最もたいせつなことは人間が協力し共同することである。				
59	・先進国では、開発途上国の何倍も多くのエネルギーや資源を消費している。				
60	・先進国では、開発途上国に比べて一人当たりの二酸化炭素排出量はるかに多い。				
60	・資源や環境と人口とのバランスから、開発途上国の人口増加を問題視するのは許されない。		60	・開発途上国の人口増加が、資源の枯渇や環境破壊の原因である。	
61	・有限な資源や環境をすべての人々が公平に享受できるようにすることがたいせつである。		61	・経済発展と資源・環境保全との間には矛盾がある。	
61	・資源・環境問題は世代間の分配の問題である。				
62	・資源・環境保全と公正な社会秩序の建設は不可分の問題である。				

【資料3】「環境問題」について資料に基づいて考えを述べるためのワークシート例（1～3時間目）

資料をもとに意見文を書こう

年 組氏名

① 「地球の有限性と人間 ―人口問題の視点より」に述べられている考えのうち題材とするもの

②

② 『環境・循環型社会・生物多様性白書』から引用する資料とそこから読み取れること

資料番号	資料のタイトル	資料からわかること

③ 意見文で述べる考え

①の考えに（ 賛成 ・ 反対 ）の立場で意見を述べる。

中心となる意見	
---------	--

④ 意見文の構成

序論	
本論	
結論	

【指導事例 3】「国語総合」「書くこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導 2

1 「国語総合」「書くこと」の指導事項と言語活動例

【指導事例 2】参照

2 状況や心情の描写を取り入れて随筆を書く言語活動を通した指導

(1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「書くこと」の領域における指導事項から設定した 9 事項に「言語活動例ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること」を組み合わせたものが、【資料 1】の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。なお、言語活動例には「詩歌」・「随筆」が例示されているが、ここでは「随筆」を設定した。

学習指導要領の指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、「随筆を書く」という言語活動においても、「題材選定・取材・表現の工夫（指導事項ア）」・「構成（指導事項イ）」・「記述（指導事項ウ）」・「推敲・交流・評価（指導事項エ）」のそれぞれに対応した指導を実施することが可能である。

ただし、構成に関する指導事項イに関わる b ②は論理的な文章において、客観性のある資料を用いることについての事項であるため該当しない単元もある。

また、記述に関する指導事項ウに関わる c ①と c ②とは、c ①の主に論理的文章の記述における説明に関する指導と、c ②の主に文学的文章における描写に関する指導とを分けて設定しているため単元によっては該当しない場合がある。

生徒の実態にもよるが、まず随筆などの文学的文章を書くといった言語活動を通して、主に「描写」に関する指導を計画し、これとは別の論理的文章を書く言語活動を通して主に「説明」する能力について指導し、その後に書く目的に応じて説明と描写の適切な表現の仕方を選択することについて考えさせることが適当であろう。また、読むことの領域における指導に際しても、優れた説明、描写について指導することが有効である。

実際の指導に際しては、「書くことを主とする指導には 30～40 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。（4 内容の取扱い(3)ア）」として示されている授業時間の目安に従って立案する、年間の指導と評価の計画の見通しによって重点化して取り上げることになる。

この単元における重点化は【資料 1】のように設定することにしたが、「随筆を書く」という言語活動を通して指導することができる指導事項であっても、年間計画全体の見通しによって、この単元での重点項目とはしない事項がある。これらにも、随筆を書く過程では欠かせない学習活動も含まれており、この単元で重点的な指導と評価を位置付けないということである。

(2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。

まず、高等学校 1 年「国語総合」の「読むこと」の領域の文学的文章を読むことについて指導する単元の後に設定すること。生徒の実態にもよるが、同じ教材による「読むこと」の単元に続く「書くこと」の単元を設定するのが効果的であるという考えによる。

次に、対応する指導事項は、「指導事項ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと」、「指導事項ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと」、「指導事項エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」を設定すること。特に指導事項エにある優れた表現に接してその条件を考えるための指導は、単元の冒頭に置くことも有効だと考えた。

また、上記の指導事項を、「言語活動例ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の３点を考えて教材を選定するが、文学的な文章における描写について指導するためには、優れた表現に接してその条件を考え自分の表現に生かすことができる学習過程を計画するのが効果的であると考えた。

ここでは、「国語総合〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「(1)ア(ア)・・・伝統的な言語文化への興味・関心を広げること」,「(6)ウ(ク)我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと」に関連して教科書掲載の次の教材を選定した。

教材 『国語総合 古典編』東京書籍
詩歌「万葉集、古今和歌集、新古今和歌集」

この教材にある和歌から一首を選び、伝統的な美意識について述べた随筆を書くという言語活動を通してこの単元の指導を構想する。

(3) 単元の計画

単元案

- ・ 単元名 随筆「現代に生きる和歌」を書こう。
- ・ 教材 詩歌「万葉集、古今和歌集、新古今和歌集」
(『国語総合 古典編』東京書籍)
- ・ 単元の目標 優れた表現に接してその条件を考え、ものの見方や感じ方を豊かにし、自分の表現に役立てること。
- ・ 単元の評価規準 (一) 現代も感じられる伝統的な美意識について述べる随筆を書くために、題材とする和歌を選択し、自分自身の体験や思索から必要な素材を取捨選択している。(a①)
(二) 表現技法を工夫して、情景、人物、心理などを描写している。(c②)
(三) 和歌の表現や内容の優れた点を分析し、随筆の表現に役立てている。(d①)
(四) 古典を素材とした随筆、小説、評論などを読んで、伝統的な美意識についての見方、感じ方、考え方を豊かにしている。(d③)
- ・ 配当時間 全３時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1	・ 図書館等を利用して、古典を素材とした随筆や短編小説、評論などを読み、相互に紹介し合う。	d③ 古典を素材とした随筆、小説、評論などを読んで、伝統的な美意識についての見方、感じ方、考え方を豊かにしている。
2	・ 選択した和歌から読み取ることで、美意識についてイメージを広げ、関連のある体験や思いについて	a① 現代も感じられる伝統的な美意識について述べる随筆を書くために、題材とする和歌を選択し、自分自身の体験や思索から必要な素材を

	ワークシートに記載する。 ・和歌の表現や内容の優れた点を整理して、随筆の構想に役立てる。	取捨選択している。 d ① 和歌の表現や内容の優れた点を分析し、随筆の表現に役立てている。
3	・和歌に詠まれた情景、心情を描写したり、関連のある情景、心情を描写したりするのに効果的な表現方法を工夫して 800 字程度の随筆を書く。	c ② 表現技法を工夫して、情景、人物、心理などを描写している。

(4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成〇年〇月〇日

二 クラス 第〇学年〇組

(「三 単元」,「四 教材」,「五 単元の目標」,「六 単元の評価規準」,「七 指導計画」,「八 本時の目標」,「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照。)

十 本時の指導

・ 3 時間中の 2 時間目

学習 段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (5 分)	・ 単元の目標 理解 ・ 本時の学習 目標理解	①・単元の目標と言語活動 について確認する。 ・随筆の素材とする和歌 を選び、関連のある体験 などを整理することを理 解する。	①・評価の観点を基にして、単元の目標を 示す。 ・「現代に生きる和歌」というテーマで 800 字程度の随筆を書くという言語活動を示 す。
展開 (40 分)	・ 和歌の分析 と体験等の想 起 ・ 表現の工夫	②・選択した和歌から読み 取ることのできる美意識 の特徴についてイメージ を広げ、関連のある体験 や思いについてワークシ ートに記入する。 ③・和歌の表現や内容の優 れた点を整理して、随筆 の構想に役立てる。	②・和歌に詠まれた価値観や発想を前単元 の学習を参考にして整理させる。 【資料 2】 ・印象的な感じ方や発想からイメージを 広げ、関連のある体験などをワークシ ートに書かせる。 ・ワークシートの記載例を示し、例に倣 ってまとめさせる。 【資料 2】 ③・和歌の表現や発想などの内容のうち、 随筆の文章表現に生かすものを整理させ る。 【資料 2】 ・随筆のテーマを決めることが難しい場 合は、前時に読んだ随筆等を参考にさせ る。 ・和歌そのものを引用するか、歌意を用 いるか、文中のどの位置に置くか等を工 夫させる。 ★和歌に込められた美意識の特徴を読み取 り、自分自身の体験等と関連付けている かをワークシートから評価する。(a ①) ★和歌の表現の優れた点を文章表現に生か そうとしているかをワークシートから評 価する。(d ①)
終結 (5 分)	・ 次時の予告	④・次時 (3 時間目) の活 動を理解する。	④・次時には 800 字程度の随筆を書き、自 己評価することを予告する。 【資料 3】

【資料１】「具体的な評価規準の設定例（書く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「書く能力」に関する 評価規準の設定例（９項目）	重 点 化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	a① 相手や目的に応じて題材を選び、集めた材料の中から必要なものを取捨選択している。	○	・現代も感じられる伝統的な美意識について述べる随筆を書くために、題材とする和歌を選択し、自分自身の体験や思索から必要な素材を取捨選択している。
	a② 相手や目的に応じて適切な文章の形態や文体、語句を選んで書いている。		・文学的な文章を書くための文体や語句を選んで書いている。
イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。	b① 自らの考えを説得力のある文章で表現するために、思考を整理し、論理の構成や展開を工夫して書いている。		・和歌に詠まれた出来事や感じ方と、自分自身の体験、思索や感慨の関連が分かりやすい文章の展開を工夫して書いている。
	b② 客観性のある資料を根拠として、論理的な展開の文章を書き、自分の考えをまとめている。		・該当なし
ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	c① 事実と意見、中心的な部分と付加的な部分との関係を明らかにするなどして、事柄を具体的に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりしている。		・出来事について説明することがらを選び、効果的な叙述の順を工夫して分かりやすく述べている。
	c② 表現技法等の表現の仕方を工夫するなどして、物事の様子や心情等を描写している。	○	・表現技法を工夫して、情景、人物、心理などを描写している。
エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d① 内容や表現の優れた文章に接して、その優れた点を分析し、表現に役立てている。	○	・和歌の表現や内容の優れた点を分析し、随筆の表現に役立てている。
	d② 文章の内容や表現などについて、自己評価や相互評価することで、表現に役立てている。		・現代も感じられる伝統的な美意識について述べた随筆の構想について、自己評価や相互評価することで、表現に役立てている。
	d③ 幅広く文章を読んで、文章を書くのに必要なものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	○	・古典を素材とした随筆、小説、評論などを読んで、伝統的な美意識についての見方、感じ方、考え方を豊かにしている。

【資料2】随筆「現代に生きる和歌」ワークシート例と記載例（2時間目）

随筆「現代に生きる和歌」 年 組氏名

1 選んだ和歌を書き、イメージなどを自由に書きなさい。

2 和歌からどのような美意識や感覚の特徴が読み取れるかを挙げなさい。	3 2の項目と関連のある自分自身の体験や思いを挙げ、随筆の素材とするものを選びなさい。

4 和歌の表現や発想の優れた点をあげ、随筆を書く際に表現の参考としなさい。

〔記載例〕随筆「現代に生きる和歌」

1 選んだ和歌を書き、イメージなどを自由に書きなさい。

⇒遠くに見えなくなる ⇒去ったものが戻ることを隠喩

⇒遠くにたなびく ⇒春には北に、秋には戻る

〔春霞 かすみて往に〕し かりがねは 今ぞ〔鳴く〕なる 秋霧の上に

⇒直接体験

⇒推定 ⇒姿は見えない

音、声によって知る

2 和歌からどのような美意識や感覚の特徴が読み取れるかを挙げなさい。	3 2の項目と関連のある自分自身の体験や思いを挙げ、随筆の素材とするものを選びなさい。
・自然の音から季節の移ろいを感じ取る細やかな感覚 ・去って行ったものが再び戻ってくることを待つ気持の豊かさ ・季節によって「霞」と「霧」を区別する季節感 ・雁を人に例えて待ちわびる気持を表現する婉曲さ	・鳩は「鉄砲、鉄砲」と鳴くのだと聞いて以来、鳩の鳴き声があると大丈夫だよと話しかけたくなる。 ・虫や鳥の声に言葉をあてはめることを「聞きなし」というと聞いた。 ・音楽を聴くと何となく曲によって決まった景色や色を連想する。 ・夏の合宿でウグイスの声を聞いて何だか変な気がした。 ・毎年ツバメが自宅の車庫に巣を掛けるが、冬にこの巣を見ると翌年の春には自分はどんな生活をしているかなと思うことがある。 ・雨は夏には関東、春や秋は関西の方がいい音がするという人がいたが、私は春の雨というと学校を連想し、夏の夕立は自宅を思い浮かべる。人それぞれに決まったイメージがあるのだと思う。 ・受験生向けのお菓子の桜の模様がついていたり、合格することを「サクラサク」と言ったり、桜には共通のイメージをもつ人が多い。

4 和歌の表現や発想の優れた点をあげ、随筆を書く際に表現の参考としなさい。

- ・渡り鳥を詠むことで、季節の推移や繰り返しを感じさせている。
- ・ほんやりとした印象のある霞や霧を詠むことで、はっきりしない季節の気配を感じていることを表現している。
- ・「ぞ・・・なる」という係り結びの強調表現で、待ちわびている気持ちを表現している。
- ・倒置法によって、待ちわびている気持ちを強調して表現している。
- ・季節の変化だけでなく全体を隠喩として理解することもできる。

【資料３】随筆「現代に生きる和歌」自己評価表例（３時間目）

随筆「現代に生きる和歌」自己評価表 年 組 番氏名

* 随筆執筆を振り返って自己評価しなさい。

評価項目	A	B	C	得点
①和歌に表現された美意識の特徴を考えることができた。				
②和歌に関連のある体験や思いを随筆に書くことができた。				
③表現技法を工夫して描写することができた。				
④随筆に和歌の表現や発想を生かすことができた。				
⑤伝統的な価値観や美意識についての理解が広がった。				
(点数換算) A : 5点 B : 3点 C : 1点				／50

* 和歌の表現や発想を随筆執筆にどのように生かしたのかを, 工夫した点が分かるように具体的に説明しなさい。

【指導事例4】「国語総合」「読むこと」の領域における言語活動例を踏まえた指導（批評文）

1 「国語総合」「読むこと」の指導事項と言語活動例

新学習指導要領（平成21年3月公示）第2章、第1節国語、第2款各教科、第1国語総合の「2内容、C 読むこと」に「(1)次の事項について指導する」として、次の5項目がある（以下「指導事項」）。

- ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。
- イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
- オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。

また、「(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする」として、次の4例が取り上げられている（以下「言語活動例」）。

- ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。
- イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。
- ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。
- エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。

「読むこと」の指導事項においては、「表現に即した理解（指導事項ア）」・「文章の解釈（指導事項イ・ウ）」・「考えの形成（指導事項エ）」・「読書・情報活用（指導事項オ）」といった学習の過程に沿った構成がなされている。これは、小学校及び中学校において学習の過程に沿った内容の構成がなされていることを受けるとともに、「各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。（「総則」第5款の(5)）」とも関連している。

こうした改訂のねらいを踏まえ、指導事項と具体的な単元の指導とを対応させ、指導改善を図るために、【資料1】「具体的な評価規準の設定例（読む能力）」の表中「『読む能力』に関する評価規準の設定例」のように細分化した。例えば、指導事項アは、a①からa③までの3事項に細分化しており、指導事項アから指導事項オまでの5事項をa①からe②までの合計15事項の評価規準例に分割した。実際の指導においては、これらの複数を同時に指導することも多いが、指導事項アの表現に即した理解に関する指導事項を文章の形態によって3項目に細分化するなど、指導の重点を明確化し、「国語総合」の全体を通してバランスの取れた指導となるように細かく設定した。

本指導事例では、単元の評価規準とすることのできる例として、指導事項を基に設定した15事項のそれぞれに対応させて、言語活動に応じた具体的な評価規準の設定例を当てることを原則とする。ただし、a①②③の項目は、文章の形態により細分化した項目であるため該当しない項目がある。また、設定する言語活動は学習指導要領の言語活動例として挙げられているものの中から設定し、教材は現行の「国語総合」の教科書から選定する。

2 文字や画像などによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめる言語活動を通した指導

(1) 指導事項と言語活動との整合性

国語総合の「読むこと」の領域における指導事項から設定した15事項に「言語活動例イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること」を組み合わせたものが、【資料1】の表中にある「言語活動における具体的な評価規準の設定例」である。なお、言語活動例ではメディアの種類として「文字」・「音声」・「画像」が例示されているが、ここでは「音声」を除いて設定した。

指導事項が学習の過程に沿った内容の構成となっているため、情報を取捨選択してまとめる言語活動においても、それぞれの過程に対応した指導を実施することが可能であり、【資料1】における評価規準の設定例では、15項目中13項目について設定例を記載した。a②にある論理的な文章の形態に応じて読むことに関する指導も、生徒の実態によっては主たる教材に関連して幅広い文章を読む能力を身に付けさせる目的で、文学的な文章に関わる論理的文章を読むことについて指導するという計画であれば、具体的な評価規準を設けることも考えられる。

実際の指導に際しては、年間の指導と評価の計画の見通しによって重点化して取り上げる。

例えば、指導事項アを基に設けた「a① 文学的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる」の事項に対応する指導として、例えば物語、詩歌などの形態の特徴に応じた読みの指導をすることが想定できる。しかし、この単元とは別に文学的文章の形態に応じた表現の特色を理解して読むことの指導が設定されているならば、ここでは重点項目としないことも考えられる。

このように、設定した言語活動を通して指導することができる指導事項であっても、年間計画全体の見通しによって、この単元での重点項目とすることの必要性を検討することになる。もちろん、ここで指導と評価の重点として扱わない事項であっても、例えば、指導事項イ、特にb①の「文脈をとらえ、語句や表現に注意して、筆者の考えなどを過不足無く理解している」に対応する学習活動はほとんどの単元で指導が必要であるが、ここでは重点化した指導と評価の対象として位置付けていないということである。また、指導事項オに対応する「具体的な評価規準の設定例」を示しているが、本指導事例においてはこれに対応する学習活動そのものを設定していない。この設定例は、学習の過程として指導することができる例を示したものである。

(2) 教材の選定

指導事項と言語活動との整合性及び、生徒の実態に応じた年間計画における位置付けに配慮し、ふさわしい教材を選定する必要がある。

本指導事例の教材選定に当たって配慮した条件の概要は以下の点である。
まず、高等学校1年を対象とした単元とすること。

次に、対応する指導事項は、「指導事項ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと」、「エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること」を設定すること。

また、上記の指導事項を、言語活動例イにある「文字や画像などによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめる言語活動」を通して指導するものとし、ふさわしい教材を現在使用している「国語総合」の教科書から選定すること。

以上の点を考えて教材を選定するが、まず「文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする」ためには、文章の構成などに際立った特色があり、書き手の表現意図がとらえやすい教材が適切である。また、文章に描かれた情景や人物、心情などを表現に即して読み味わうための指導手段として、同一の素材を映像によって表現したものと比較するという活動は効果的である。このことは、映像化された文学作品に接した時に誰もが抱く感慨を思い起こしてみれば明らかである。画像によって表現されたものを目にしたときの違和感を言葉にしたり、画像の表現が文学作品のどの表現に基づくものかを考えたりすることは、文章そのものを表現に即して読み味わうための有効な手だてである。表現に即して理解するだけでなく、読み味わい、評価する能力を育てる単元にふさわしい教材を選定する必要がある。

そこで、教科書掲載の定番教材ともいえる次の教材を選定した。

教材 『高等学校 改訂版 国語総合』第一学習社 物語を楽しむ『伊勢物語』「芥川」

教科書には『伊勢物語』第六段の半ばにある和歌までしか掲載されていないが、掲載されている「芥川」前半の超現実的な内容と、省略されている後半の現実的な暴露的内容とが和歌によって分断されつつ全体として一つの章段にまとめられていることの効果について考えたり評価したりするのに適切な教材であるといえる。

また、挿絵として「芥川」（伝俵屋宗達筆）と「芥川」（模本『伊勢物語絵巻』）が掲載されている。後者は右から左への絵巻物における時間の流れに従っていくつかの場面が絵画化されており、最後の場面では赤鬼が女を捕らえている場面が描かれている。これは、掲載本文の内容とは合致するが、『伊勢物語』第六段「芥川」では、この後に女は兄弟たちによって連れ戻されたという真相が語られるのであり、『伊勢物語』そのものの内容とは合致しない。

また、「芥川」を素材とした絵画の多くは、男が女を背負って徒歩で川のほとりを逃げる場面を描いたものであり、ウェブページでも数種類を閲覧することができる。本単元化に際しては、本文解釈の違いが読み取りやすい絵画を4点選択してプリントしたものを教材とする。

(3) 単元の計画

単元案

- ・ 単元名 「伊勢物語絵」から『伊勢物語』を読もう。
- ・ 教材
 - ・ 『伊勢物語』「芥川」（第一学習社『高等学校 改訂版 国語総合』）
 - ・ 伊勢物語絵 絵1・「伊勢物語図色紙」（伝 俵屋宗達筆）
絵2・嵯峨本『伊勢物語』挿絵 絵3・奈良絵本『伊勢物語』
絵4・『新釈絵入伊勢物語』（竹久夢二 絵）
- ・ 単元の目標
 - （一）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
 - （二）文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする。

- 単元の評価規準 (一)『伊勢物語』第六段「芥川」の表現に即して、登場人物の行動やものの見方や感じ方を理解し、人物の心情の変化を読み取っている。(c①)
- (二) 男女の置かれた状況や言動を理解するために、時、天候や露の設定効果を考えている。(c②)
- (三) 和歌に詠まれた男の心情を読み取り、自分自身に置き換えて共感したり批判したりしている(c③)
- (四) 和歌に続く本文の有無それぞれの場合における設定の相違を確かめている。(d①)
- (五) 和歌に続く本文の有無それぞれの場合における和歌に込められた男の心情を比較し、内容について判じている。(d②)

・指導計画 全5時間

時限	学習内容	具体的な評価規準
1 2 3	・教材文「芥川（和歌まで）」を読み時、天候や露の設定効果を考えて男女の置かれた状況や言動を理解して、和歌に詠まれた男の心情を読み取る。	c① 『伊勢物語』第六段「芥川」の表現に即して、登場人物の行動やものの見方や感じ方を理解し、人物の心情の変化を読み取っている。 c② 男女の置かれた状況や言動を理解するために、時、天候や露の設定効果を考えている。
4	・和歌に続く本文の有無により、内容にどのような相違が生じるかを、グループごとの話し合いを通して考え、批評文を書く。	c③ 和歌に詠まれた男の心情を読み取り、自分自身に置き換えて共感したり批判したりしている。 d① 和歌に続く本文の有無それぞれの場合における設定の相違を確かめている。 d② 和歌に続く本文の有無それぞれの場合における和歌に込められた男の心情を比較し、内容について判じている。
5	・複数の伊勢物語絵の相違を読み取りそれぞれが第六段における登場人物の行動やものの見方や感じ方、心情の変化についてどのような解釈を反映したものであるかを、グループごとの話し合いを通して考え、批評文を書く。	c① 『伊勢物語』第六段「芥川」の表現に即して、登場人物の行動やものの見方や感じ方を理解し、人物の心情の変化を読み取っている。

(4) 学習指導案の例

国語科学習指導案

一 日 時 平成○年○月○日

二 クラス 第○学年○組

(「三 単元」、「四 教材」、「五 単元の目標」、「六 単元の評価規準」、「七 指導計画」、「八 本時の目標」、「九 本時の評価規準」は記載省略。単元案参照。)

十 本時の指導

・5時間中の4時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (10分)	・単元の目標理解 ・本時の学習目標理解	①・単元の目標、本時の目標と言語活動について確認する。 ・前時の確認と教科書に続く後半の本文を知る。	①・評価の観点を基にして、単元の目標を示す。 ・章段の全文を読み、和歌より後の本文があることの効果について考える批評文を書くことを示す。

展開 (35 分)	・文章の構成や展開の確認	②・和歌に続く本文の有無により、内容にどのような相違が生じるかを、グループごとの話し合いを通して考える。	②・和歌に続く本文は古文だけでなく現代語訳も教材とする。 ・項目ごとに対照表を作成して比較させる。 ・相違点が明らかになるように項目ごとの対照表を作成させる。
終結 (5 分)	・次時までの課題確認	③・次時まで、比較によって明らかになった相違点に基づいて、和歌に続く本文の必要性を判断する批評文を書く。	③・記述の相違点について述べるだけでなく、設定や心情等の相違について比較した上で、判断を明確にした批評文を書かせる。 ★設定の相違や、和歌に込められた心情の相違に基づいて、第六段の和歌に続く本文の必要性を判断しているかを対照表と批評文によって評価する。 (c③, d①, d②)

・5時間中の5時間目

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
導入 (10 分)	・単元の目標理解 ・本時の学習目標理解	①・単元の目標、本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、単元の目標を示す。 ・4点の伊勢物語絵を紹介し、それぞれを解釈の反映としてとらえさせる。 ・解釈の相違が明らかになりやすい絵を選択して教材とする。
展開 (35 分)	・伊勢物語絵の比較	②・4種類の伊勢物語絵から受ける印象の違いのあることに気づく。 ③・それぞれの絵の特徴と本文との関連をグループごとの話し合いを通して考える。 ④・『伊勢物語』第六段「芥川」の挿絵として最も適切だと判断する伊勢物語絵を選択し、その判断の根拠となる本文の解釈を述べる批評文を書く。	②・相愛度が最も高いと感じる絵を選択させることで、4枚の絵の印象の違いと、見る者による受け取り方の相違があることを理解させる。【資料2】 ③・相違点が明らかになるように項目ごとの対照表を作成させる。【資料2】 ④・絵を選択する際に、単なる印象でなく、根拠となる解釈を明らかにして批評させる。 ★それぞれの絵の表現意図をとらえ、本文の解釈と関連付けているかどうかを批評文の記述から評価する。(c①)
終結 (5 分)	・授業のまとめ	④・「伊勢物語絵」に表現された『伊勢物語』第六段「芥川」の解釈について批評する文を書くことを通して、本文を読み味わう学習であったことを確認する。	④・机間指導の際に、生徒の批評文の内容を確認しておき、数点の内容を紹介して読みの深まりを評価する。

【資料１】「具体的な評価規準の設定例（読む能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「読む能力」に関する 評価規準の設定例（15 項目）	重点化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。	a ① 文学的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		・歌物語における和歌と散文との関係を理解して読んでいる。
	a ② 論理的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		・該当無し
	a ③ 実用的な文章について、内容と、形態に応じた表現の特色とを理解して文章を読んでいる。		・該当無し
イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。	b ① 文脈をとらえ、語句や表現に注意して、筆者の考えなどを過不足無く理解している。		・古語の意味を理解し、物語の設定や内容を理解している。
	b ② 読む必要に応じて、文章を要約している。		・和歌に続く本文の有無それぞれの場合における事件のあらましを要約し、設定の相違を端的に述べている。
	b ② 読む必要に応じて、文章の一部を詳述している。		・絵画から読み取ったことを述べる際に、和歌に続く本文の有無それぞれの場合における、男女の心情を詳しく説明している。
ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	c ① 表現に即して、登場人物の、行動や性格、ものの見方、感じ方、考え方、ひいては生き方を的確にとらえて、人物個々の心情の変化や、人物相互の関係の変容を読み取っている。	○	・『伊勢物語』第六段「芥川」の表現に即して、登場人物の行動やものの見方や感じ方を理解し、人物の心情の変化を読み取っている。
	c ② 情景が、人物の心情の反映や象徴、物事が起こる予兆などとして設定されていることを理解し、表現に即して、人物の言動、置かれている状況を理解する手掛かりとしている。	○	・男女の置かれた状況や言動を理解するために、時、天候や露の設定効果を考えている。
	c ③ 登場人物の心情に思いをいたし、自らの生き方と重ね合わせて共感したり反発したりしている。	○	・和歌に詠まれた男の心情を読み取り、自分自身に置き換えて共感したり反発したりしている。
エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	d ① 文章の組立て等の構成と、考えの進め方や内容の推移等の展開を確かめている。	○	・和歌に続く本文の有無それぞれの場合における設定の相違を確かめている。
	d ② 文章の内容や表現の仕方について、規準や根拠を明確にして判じることができる。	○	・和歌に続く本文の有無それぞれの場合における和歌に込められた男の心情を比較し、内容について判じている。
	d ③ 段落に注目し、書き手の思考の流れから強調点を読み取り、執筆動機や表現意図を考えている。		・『伊勢物語』第六段「芥川」の構成から物語の生成や享受の在り方について考えている。
オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	e ① 文学的、論理的、実用的文章等幅広い形態の、多様な内容の文章を、様々な方法で探して読んでいる。		・注釈書やウェブページなどで『伊勢物語』のうち業平和高子をモデルにしたとされる章段を選んで読んでいる。
	e ② 本や文章によって得た情報を選択、評価、加工している。		・『伊勢物語』のうち「芥川」を含む複数の章段を紹介し、「昔男」に託された美意識を抽出している。
	e ③ 幅広く本や文章を読み、書き手の意図をとらえ、読み味わうことによって自分なりの考えをもつようになっている。		・『伊勢物語』や関連する本、ウェブページなどを読み、伝統的な美意識について考えている。

【資料 2】伊勢物語絵「芥川」の比較のためのワークシート例（5 時間目）

伊勢物語絵「芥川」の比較 年 組 番 氏名

- 1 4 種類の伊勢物語絵から受ける印象を比較し、相愛度が高いと感じる順に並べ替えなさい。
 〔 〕 → 〔 〕 → 〔 〕 → 〔 〕

- 2 当てはまる項目に○を付けなさい。

項目	絵 1	絵 2	絵 3	絵 4
男が女を背負っている				
（秋の）草（露）が描かれている				
柳の木が描かれている				
男が裸足である				
男が沓（くつ）を履いている				
男が草履を履いている				
男と女が同じものを見ている				
男と女が見つめ合っている				
男と女が別のものを見ている				
右から左に逃げている				
左から右に逃げている				
月が出ている				
建物（倉）が描かれている				